

口頭発表A④

2 種類のコミュニケーション授業の比較 — 保育所実習を含む授業と学内演習のみの授業の比較検討 —

長宗雅美¹・寺嶋吉保¹・山田進一²・嵯峨山和美³・荒木秀夫³

(¹徳島大学大学院ヘルスケア・イノベーション研究部医療教育開発センター ²山田こどもクリニック

³徳島大学全学共通教育センター)

1. はじめに

徳島大学では全学共通教育、社会性形成科目群の授業として平成 19 年度より「ヒューマン・コミュニケーション」授業を行ってきた。これは地域の保育所における乳幼児との継続的交流実習を組み入れた、体験型コミュニケーション授業である。学生評価は非常に高く、徳島大学 平成 19 年度前期共通教育賞、平成 20 年度前期共通教育賞を受賞している。

平成 21 年度も前年度と同様に開講予定であったが新型インフルエンザの影響で、変更を余儀なくされた。前期、2 クラスは実習回数を減らす等して実施し、後期、1 クラスは、交流実習不可能と判断し閉講し、その代替えとして講義、学内演習を中心とした授業を開講した。

この二つの授業を比較し、授業の方法、効果について検討した。

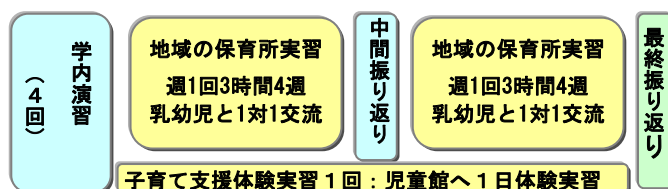
2. 授業の概要

2-1 平成 21 年度前期



この授業は、医療人としての人間形成を目指し、学生の人間力を培うことを目的に、平成 18 年度より開講された。平成 18 年・19 年度は対象を医療系学部限定していたが、平成 20 年度より受講枠

を広げ、他学部生も受講可能となった。平成 18 年度から 20 年度までの実践・検討より、①学内演習 4 回、②交流実習 7 回以上、③中間および最終振り返りの要素が重要と考えられ、④児童館における 1 日体験実習がより学習効果を深めると思われた。



効果的と思われる授業の組立
(90 分×2 コア授業、全 16 回)

*児童館実習は 2 回とカウントしている

①学内演習 (4 回)

外部講師を招いた特別講義や学生同士のグループワークを行う。また、交流実習に向けての準備物(名前を書いたゼッケン、パートナーや保護者に宛てた手紙・プレゼント)を作成する。

②交流実習 (7 回以上)

地域の保育所における乳幼児との 1 対 1 の継続的交流実習。学生それぞれに特定のパートナーが存在することがこの授業の特徴の一つである。

③中間および最終振り返り

体験によって得られた気づきや学び、また悩みを仲間と共有し、意見交換をする。可能であれば、保護者、保育所職員にも参加を求める。

④児童館における 1 日体験実習

初対面、複数の相手に対応することや、各年代の多様な子ども達の理解を目的とする。

新型インフルエンザの影響で授業の組立を変更し以下の 2 クラスを開講した。

- ・医学部保健学科看護学専攻 1 年生 55 名
- ・医学部医学科 1 年生 35 名、薬学部 1 年生 6 名

学内演習
(4回)

地域の保育所実習
週1回3時間7週
乳幼児と1対1交流

最終振り返り

子育て支援体験実習1回：児童館へ1日体験実習

平成 21 年度前期授業の組立
(90分×2コマ授業、全14回) + 補講

2-2 平成 21 年度後期

徳島県内に新型インフルエンザ流行の兆しがみられ、交流実習実施不可能と判断し閉講し、座学を中心とした講義「医療とコミュニケーション」(90分授業、全16回)を開講した。

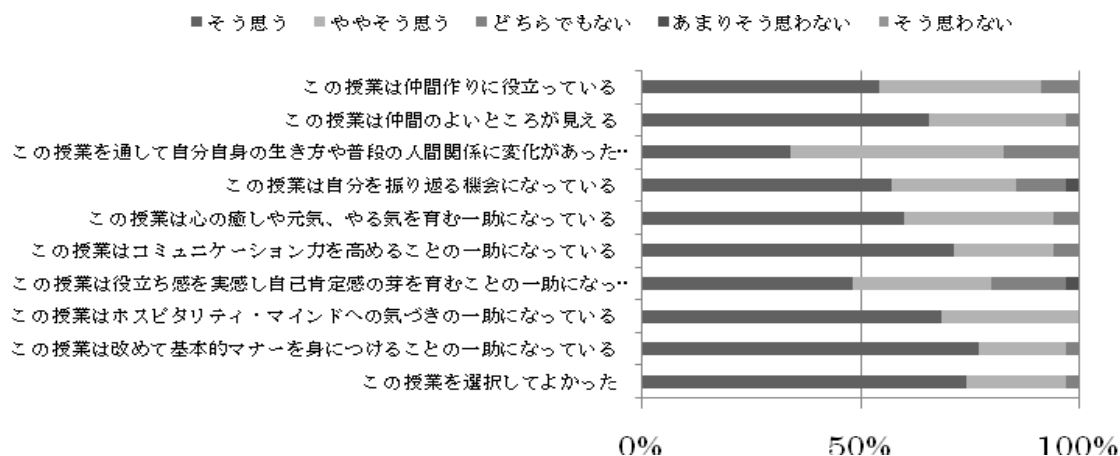
・医学部医学科1年生57名が受講した。

－授業の内容－

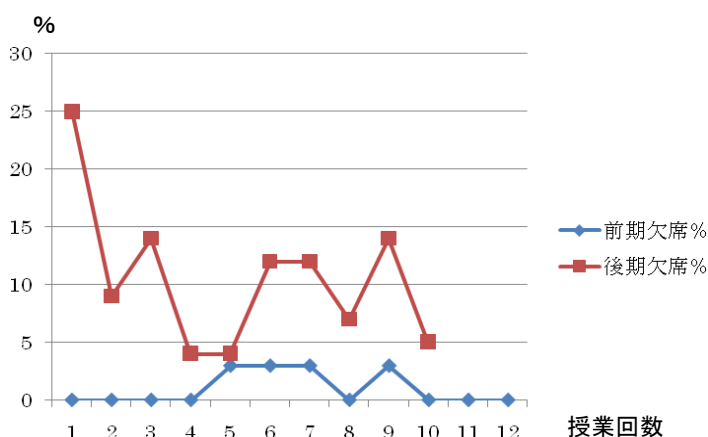
- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション ②授業概要説明と事前アンケート調査 ③講義「脳と言語」 ④講義「認知能力の発達とコミュニケーション」 | <ul style="list-style-type: none"> ⑤講義「人間行動におけるコミュニケーション～ボディランゲージ・ジェスチャー～」 ⑥グループワーク「聴き手のあり方」 ⑦グループワーク「ホスピタリティを学ぶ」 ⑧グループワーク「協力について」 ⑨講義「コミュニケーションにおける空間的行動研究」 ⑩グループワーク「医療現場のコミュニケーション～ヒューマンエラーの視点から～」 ⑪講演会「手話」 ⑫ESDワークショップ「さくら診療所見学」 ⑬コミュニケーション調査(グループ作り、課題設定) ⑭コミュニケーション調査(分析、発表資料作り) ⑮プレゼンテーション ⑯総括授業 |
|--|--|

3. 比較検討

3-1 前期医学部医学科学生の授業評価



3-2 前後期医学部医学科学生の出席状況



4. おわりに

今回、新型インフルエンザという突然の事態により、コミュニケーション授業を二つの方法で行った。後期授業終了時のデータを加え、それぞれの授業を比較検討し、考察・報告する。それぞれの特徴を今後のコミュニケーション授業展開に役立てたい。